

令和6年度 授業改善推進プラン

青梅市立西中学校

教科名

数学

科

1 生徒の実態

1年	2年	3年
○小学校の知識が身についていない生徒が多い。数学が苦手な生徒でも、授業に前向きに取り組んでいる。 ○授業中には理解してできるようになっても、1週間後、テストになると解けない生徒が多い。 ○毎回の授業で宿題を課しているが、まだ家庭学習の習慣がついていない。	○授業に集中して取り組む生徒は多いが、中には集中力が継続しない生徒もいる。 ○基本的内容の定着に差がある。 ○提出物の提出状況は概ね良好である。	○授業に集中して取り組む生徒が多い。 ○基本的内容は定着しつつある。 ○数学的な思考力・判断力・表現力の習熟度の低い生徒がいる。 ○提出物の提出状況は概ね良好である。

2 指導上の課題

1年	2年	3年
○基礎学力の定着、向上のため、演習時間の確保をしなければならない。 ○授業以外の時間にも学習ができるようにする必要がある。 ○数学的に興味関心が低い。教科書は、計算や基礎知識の問題が多く、実生活に基づいた内容に触れることが少ないのが現状である。	○基礎力の定着・向上を図るため、問題演習の時間を十分に設定する必要がある。反復練習が必要である。 ○数学的な思考力・判断力・表現力を養うために、必要に応じて応用問題や文章問題等に取り組む必要がある。 ○生徒が問題を解く過程で、十分に生徒の答える機会や時間が必要である。	○基礎力の定着の徹底・向上を図るため、継続的に問題演習の時間を設定する必要がある。 ○数学的な思考力・判断力・表現力を養うために、必要に応じて応用問題や文章問題等に取り組む時間の設定が必要である。

3 授業改善の視点とその方策

1年	2年	3年
○授業内の問題の優先度を、習熟度別に設定し、演習時間を確保する。 ○毎時間宿題を課す。 ○授業の導入や各単元の利用の問題を丁寧に行い、日常生活の中で数学がどう生かされているのかを考えさせる。	○反復練習を授業の中で行い、基礎・基本の徹底を図る。 ○既習事項や解答までの流れを確認しながら授業を行い、思考力や判断力を養う。 ○生徒が問題を解く過程で、生徒の答える機会や時間を十分に取って授業を進行し、数学に対する意欲・関心を高める。	○生徒の学習状況に応じた課題に取り組む時間を設定していく。 ○既習事項や解答までの流れを確認しながら授業を進めていく。 ○数学的な思考力・判断力・表現力を養い、活用する力を身に付けるために、応用問題や文章問題等に取り組ませる。